

令和7年度 学校いじめ防止基本方針

奥州市立胆沢第一小学校

I いじめの防止等のための対策に関する基本的な考え方

1 いじめの問題に対する基本的な考え方

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、不登校や自殺などを引き起こす背景ともなる深刻な問題である。また、最近のインターネットを介した、いわゆる「ネット上のいじめ」は、いじめを一層複雑化、潜在化させている。

いじめの問題は、学校が一丸となって組織的に取り組むことを第一義とし、家庭、地域、及び関係機関等の協力を得ながら、社会総がかりで対峙することが必要である。また、いじめの問題の解決には、児童にいじめを絶対に許さないという意識と態度を育てることが大切である。

こうした中、本校は、学校教育目標に掲げる「仲よくはげまし合う子ども」の育成を図ることにより、いじめを生まない環境を築くとともに、すべての児童が生き生きとした学校生活を送ることができるよう教育活動を推進する。そのために、校長のリーダーシップのもと、全教職員がいじめの問題に対する感性を高め、組織的にいじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組む。

2 いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童と一定の人的関係のある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

【 いじめ防止対策推進法第2条 】

3 いじめの基本認識

- (1) いじめは人権侵害であり、いかなる理由があっても許される行為ではない。
- (2) いじめは人間関係のトラブルを機序としているため、いじめられた側及びいじめた側の両方の児童、並びにそれを取り巻く集団等に対し、適切な指導と支援が必要である。
- (3) いじめは教師の児童観や指導の在り方が問われる問題である。
- (4) いじめは家庭教育の在り方に大きな関わりをもっている。
- (5) いじめは学校、家庭、地域社会などすべての関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となって取り組むべき問題である。
- (6) いじめはその行為の態様により暴行、恐喝、強要等の刑罰法規に抵触することがある。

II いじめの未然防止のための取組

1 教職員による指導について

- (1) 学級や学年、学校が児童の心の居場所となるよう配慮し、安心・安全な学校生活を保障する「居場所づくり」を通して、児童が互いのことを認め合ったり、心のつながりを感じたりする「絆づくり」に取り組む。
- (2) 自己有用感や自尊感情を育むため、児童一人ひとりが活躍し、認められる場のある教育活動を推進する。
- (3) すべての教師がわかりやすい授業を心がけ、基礎基本の定着を図るとともに、学習に対する達成感・成就感をもたせる。
- (4) 児童の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う人間関係能力の素地を養うため、全ての教育活動を通じて、道徳教育及び体験活動等の充実を図る。
- (5) いじめ防止の重要性に関する理解を深めるための啓発その他必要な処置として、道徳、学級活動等の充実に努める。

- (6) 情報発信による人・社会への影響や、ネットワーク上のルール・マナーを守ることの意味について考えさせるなど、年間計画に基づき学年に合わせた情報モラル教育を実施する。
- (7) 保護者、地域住民及びその他の関係者との連携を図りつつ、いじめ防止に資する児童が自主的に行う児童会活動に対する支援を行う。

2 児童に培う力とその取組

- (1) 自分も他人も共にかけがえのない命を与えられ、生きていることを理解し、他者に対して温かい態度で接することができる思いやりの心を育む。
- (2) 学級活動や児童会活動などの場を活用して、児童自身がいじめの問題の解決に向けてどう関わったらよいかを考え、主体的に取り組もうとする力を育む。
- (3) 学級の諸問題について話し合っ解決する活動を通し、望ましい人間関係や社会参画の態度を育てるとともに、違いや多様性を越えて合意形成をする言語能力の育成を図る。
- (4) 「心とからだの健康観察」を活用した心のサポート授業等を通して、児童生徒一人ひとりのセルフケアやストレスマネジメントの力を高める。

3 いじめの防止等の対策のための組織

本校は、いじめの防止等を実効的に行うため、次の機能を担う「いじめ対策委員会」を設置する。

- (1) 構成員
校長、副校長、教務主任、生徒指導主事、学年長（関係児童担任）、養護教諭、特別支援コーディネーター、PTA代表、担当指導主事、スクールカウンセラー（SC）等
- (2) 取組内容
 - ① いじめ防止基本方針の策定、年間指導計画の作成（道徳教育の全体計画への位置づけ）
 - ② いじめにかかわる研修会の企画立案
 - ③ 未然防止、早期発見の取組
 - ④ アンケート及び教育相談の実施と結果報告（各学級・学年の状況報告等）
 - ⑤ いじめ防止にかかわる児童生徒の主体的な活動の推進
- (3) 開催時期
 - ① 月1回を定例会（職員会議で情報交換・共有）とする。
 - ② いじめ事案の発生時は緊急開催し、事態の収束まで随時開催とする。

4 児童の主体的な取組

- (1) 児童会による「ふわふわ言葉」等の取組
- (2) いじめ防止標語・ポスターの作成
- (3) 好ましい人間関係づくりをねらいとした児童会行事や取組
- (4) いじめの問題にかかわる学級会の実施
- (5) いじめ克服をテーマとした演劇発表
- (6) 人権啓発・いじめ撲滅等各種イベントへの参加

5 家庭・地域との連携

- (1) 学校いじめ防止基本方針を、PTA総会の資料に掲載して広報活動に努める。
- (2) PTAの各種会議で、いじめの実態や指導方針について説明を行う。
- (3) いじめ防止等の取組について、通信を通じて保護者に協力を呼びかける。

【例】「いじめのサインに敏感に！」：元気がない、体調不良、食欲不振、持ち物がなくなる等いつもと違う子どもの変化に気づいてもらうための内容

- (4) 授業参観において、保護者や地域住民に道徳や特別活動等の授業を公開する。
- (5) 学級活動等で、いじめについて考えるにあたり、保護者にインタビューする。
- (6) 通信等でいじめの問題についての保護者の意見を紹介する。
- (7) 携帯電話、インターネット等の利用の問題に関しては、家庭との連携を図って指導する。

6 教職員研修

いじめの防止等のための対策に関する校内研修（生徒指導研修会等）を年間計画に位置づけて実施し、いじめの防止等に関する教職員の資質向上を図る。

- (1) いじめの問題にかかわる校内研修会
- (2) いじめの問題への取組についてのチェックポイントによる自己診断
- (3) 年度初めに「学校いじめ防止基本方針」を基に校内体制の確認

Ⅲ いじめの早期発見のための取組

1 いじめの早期発見のために

- (1) いじめや人間関係のトラブルで悩む児童が相談しやすいよう、日頃から教職員と児童が信頼関係を築くように心がける。
- (2) 日常の観察については、いじめ行為の発見だけでなく、児童の表情や行動の変化にも配慮する。
（学級担任は、日記や生活ノート等も活用する）
- (3) いじめは大人の見えないところで行われるため、授業中はもとより、休み時間、放課後、児童館等においても児童の様子に目を配るよう努める。
- (4) 遊びやふざけ合いのように見えるいじめなど、把握しにくいいじめについても、教職員間で情報交換をしながら発見に努める。
- (5) いじめの兆候に気づいたときは、教職員が、速やかに予防的介入を行う。
- (6) 地域や関係機関と定期的な情報交換を行い、日常的な連携を深める。

2 いじめアンケート及び教育相談の実施

いじめを早期に発見するため、児童生徒や保護者からの情報収集を定期的に行う。

- (1) 児童を対象としたアンケート調査（6月・10月・2月）
- (2) 保護者を対象としたアンケート調査（6月・10月）
- (3) 教育相談を通じた児童からの聞き取り調査

3 相談窓口の紹介

いじめられている児童が、教職員や保護者に相談することは、非常に勇気がいる行為である。いじめを大人に打ち明けることによって、場合によっては、いじめがエスカレートする可能性があることを十分に認識し、その対応について細心の注意を払うこととする。

いじめの兆候を発見したときは、関係する教職員で迅速に情報を共有し、適切な対応を行う。
本校におけるいじめの相談窓口を下記のとおりとする。

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| ○日常のいじめ相談（児童生徒及び保護者） | ・・・全教職員が対応 |
| ○スクールカウンセラーの活用 | ・・・養護教諭・スクールカウンセラー |
| ○地域からのいじめ相談窓口 | ・・・副校長 |
| ○インターネットを通じて行われるいじめ相談 | ・・・学校または所轄警察署 |
| ※市町村設置の相談窓口 | ・・・（連絡先など） |
| ※24時間いじめ相談電話（県教委） | ・・・019-623-7830（24時間対応） |

4 いじめの早期発見に関する留意事項

学校生活の中で、児童は様々な悩みや不安に伴うサインを、言葉や表情、しぐさなどで表している。教師は、一人ひとりの児童が救いを求めて発するサインを見逃さず、早期に対応する。

○いじめを受けている児童が学校で出すサイン

(※は、無理にやらされている可能性のあるもの)

発見の機会	観 察 の 視 点 (特に変化が見られる点)	
朝 の 会	・遅刻・欠席が増える ・表情がさえず、うつむきがちになる	・始業時刻ぎりぎりの登校が多い ・健康観察の声が小さい
授業開始時	・忘れ物が多くなる ・用具、机、椅子等が散乱している ・一人だけ遅れて教室に入る	・涙を流した気配が感じられる ・周囲が何となくざわついている ・席を替えられる
授 業 中	・正しい答えを冷やかされる ・発言に対し、しらけや嘲笑が見られる ・責任ある係の選出の際、冷やかし半分に名前が挙げられる ・ひどいあだ名で呼ばれる	・グループ分けで孤立することが多い ・保健室によく行くようになる ※不真面目な態度で授業を受ける ※ふざけた質問をする ※テストを白紙で出す
休 み 時 間	・一人でいることが多い ・訳もなく階段や廊下等を歩いている ・用もないのに職員室等に来る ・遊びの中で孤立しがちである ・プロレスごっこで負けることが多い	・集中してボールを当てられる ・遊びの中で、いつも同じ役をしている ※大声で歌を歌う ※仲良しでない者とトイレに行く
給 食 時	・食べ物にいたずらされる ・グループで食べるとき、席を離している ・その児童が配膳すると嫌がられる	・嫌われるメニューのときに多く盛られる ※好きなものを級友に譲る
清 掃 時	・目の前にゴミを捨てられる ・最後まで一人でやる ・椅子や机がぼつんと残る	※なまけることが多くなる ※人の嫌がるような仕事を一人でやる
放 課 後	・衣服が汚れていたり髪が乱れたりしている ・顔に擦り傷や鼻血の跡がある	・急いで一人で帰宅する ・用事がないのに学校に残っている日がある ※他の子の荷物を持って帰る

※登下校時の様子にも留意する。

IV いじめの問題に対する早期対応

1 いじめに対する措置の基本的な考え方

- (1) いじめを発見したり、通報を受けたりしたときは、特定の教職員が抱え込むことなく、速やかに組織的な対応をする。
- (2) いじめられている児童及びいじめを知らせた児童の身の安全を最優先に考えるとともに、いじめている側の児童には、教育的配慮の下、毅然とした態度で指導にあたる。
- (3) いじめの問題の解決にあたっては、謝罪や責任を問うことに主眼を置くのではなく、社会性の向上等、児童の人格の成長に主眼を置いた指導を行うことを大切にする。
- (4) 教職員全員の共通理解のもと、保護者の協力を得て、関係機関・専門機関と連携し、対応にあたる。

2 いじめの発見・通報を受けたときの対応

- (1) いじめを発見したときは、その場でいじめの行為を止めさせ、事実関係を明らかにする。
- (2) いじめを発見したり、通報を受けたりしたときは、速やかに「いじめ対策委員会」を開催し、校長以下すべての教員の共通理解のもと、役割分担をして問題の解決にあたる。
- (3) いじめの事案について、生徒指導の範疇で対応する事案であるか、警察への通報を要する事案であるかを適切に判断する。
- (4) いじめられている児童や保護者の立場に立ち、関係者からの情報収集を綿密に行い、事実確認をする。
- (5) いじめの事実が確認された場合は、いじめを止めさせ、その再発を防止するため、いじめを受けた児童及びその保護者に対する支援（個別面談や家庭訪問）と、いじめを行った児童への指導とその保護者への助言を継続的に行う。
- (6) いじめを受けた児童が学校生活に不安を抱えている場合、複数の教職員で見守りを行うなど、いじめられた児童の安全を確保する。また、いじめられた児童が安心して教育を受けるために必要があると認められるときは、保護者と連携を取りながら、一定期間、別室等において学習を行わせる措置を講ずる。
- (7) いじめを受けた児童の心を癒すために、また、いじめを行った児童が適切な指導を受け、学校生活に適応していくために、スクールカウンセラーや養護教諭と連携を図りながら、指導を行う。
- (8) 教育上必要があると認めるときは、学校教育法施行規則第26条の規定に基づき、適切に、児童に懲戒を加える。

3 いじめが起きた集団への対応

- (1) いじめを見ていた児童に対して、自分の問題として捉えさせる。
- (2) 学級等当該集団で話し合いを行うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、当該集団から根絶しようという態度を行き渡らせる。
- (3) 全ての児童が、集団の一員として、互いを尊重し、認め合う人間関係を構築できるような集団づくりをすすめるよう、教職員全体で支援する。

4 警察との連携

犯罪行為として取り扱われるべきいじめについては、当該教育委員会及び所轄警察署と連携して対処する。

5 ネットいじめへの対応

- (1) インターネット等を通じて行われるいじめを発見したり、通報を受けたりした場合は、「いじめ対策委員会」で情報を共有するとともに、被害の拡大を避けるため、当該教育委員会と連携し、プロバイダなどに情報の削除を求める。
- (2) 児童の生命、身体または財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに所轄の警察署に通報し、適切な援助を求める。
- (3) インターネットへの利用環境について、パソコン、携帯電話やスマートフォン等が大部分であることから、家庭の協力を得る。

6 いじめの未然防止、早期発見・対応の年間計画

月	取 組 内 容
4 月	・職員会議で「学校いじめ防止基本方針」の説明。いじめの定義、認知の共有 ・PTA総会で「学校いじめ防止基本方針」を保護者への周知 ・児童の実態を把握する

5 月	・ゴールデンウィーク後の生活習慣の見直しと改善 ・学習や生活の悩みの早期発見、解消を図る
6 月	・「生活悩みアンケート①」の実施 →結果を基に、問題の経過を把握し、支援に活かす。教育相談の実施。 →いじめ対策委員会を実施 いじめ事案の認定等 ・学びと心の指導員、家庭相談員、主任児童委員に、1学期の様子の説明 ・自己肯定感を持ち、友だちと適切な関わりができるようにする ・学校運営協議会①で「方針」説明と1学期の様子の説明する
7 月	・問題行動等を整理して、2学期からの支援に活かす
8 月	・校内研修会の実施 (いじめの未然防止、早期発見・対応に関する研修会等) (いじめの問題への取り組みについての自己診断等)
9 月	・夏休み後の生活習慣の見直しと改善 ・「心とからだの健康観察」の実施
10 月	・学習発表会の行事を通して児童理解と集団づくりを行う。
11 月	・「生活悩みアンケート②」の実施 →1学期の実態を踏まえて問題の経過を追うとともに、新たな問題の早期発見、早期解消を図る。教育相談を実施 →いじめ対策委員会の実施 いじめ事案の認定等 ・情報モラル教育の実施(学活と関連) ・学びと心の指導員、家庭相談員、主任児童委員に、1学期の様子の説明 ・PTA研修会(ネットいじめも含めた研修会) PTA文化講演会の活用
12 月	・「学びフェストに関するアンケート」の実施(保護者) ・「学びフェスト」の実施(教職員) ・問題行動等を整理し、3学期からの支援に活かす
1 月	・冬休み後の生活習慣の見直しと改善 ・1・2学期の実態を踏まえて問題の経過を追うとともに、新たな問題の早期発見、早期解消を図る
2 月	・「生活悩みアンケート③」の実施。2学期の実態を踏まえて問題の経過を追うとともに、新たな問題の早期発見、早期解消を図る。 →いじめ対策委員会の実施 いじめ事案の認定等 ・学校運営協議会で、2・3学期の様子の説明する
3 月	・問題行動等を整理し、次年度へ確実に引き継ぐ。

V 重大事態への対処

1 重大事態とは

- (1) いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身または財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
- (2) いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。【いじめ防止対策推進法第28条①②】

2 重大事態の報告

- (1) 学校は、重大事態が発生した場合、速やかに学校の設置者(当該教育委員会)に報告する。
- (2) 児童からいじめられて重大事態に至ったという申立てがあったときは、重大事態が発生したものととして対処する。

3 重大事態の調査

■学校が調査の主体となる場合

設置者の指導・支援のもと、以下のとおり対応する。

- (1) 重大事態に係る事実関係を明確にするための調査については、本校の「いじめ対策委員会」が中心となり、全職員体制で速やかに行う。
- (2) 調査の際には、重大事態の性質に応じて、適切な専門家を加えるとともに、いじめ事案の関係者と直接の人間関係または特別の利害関係を有しない第三者の参加を図り、調査の公平性・中立性を確保する。
- (3) 調査においては、いじめの事実関係を可能な限り網羅し、明確にする。特に、客観的な事実関係を速やかに調査する。
- (4) 調査結果を学校の設置者に報告する。
- (5) いじめを受けた児童及びその保護者に対し、調査によって明らかとなった事実関係について、経過報告を含め、適時・適切な方法により情報提供する。 ※関係者の個人情報に配慮する
- (6) いじめを受けた児童及びその保護者の意向を配慮したうえで、保護者説明会等により、適時・適切にすべての保護者に説明するとともに、解決に向けて協力を依頼する。
- (7) 「いじめ対策委員会」で再発防止策をまとめ、学校を挙げて取り組む。

■学校の設置者（当該教育委員会）が調査の主体となる場合

設置者の指示のもと、資料の提出など、調査に協力する。

VI 学校評価

いじめの把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、次の2点を学校評価の項目に加え、適正に自校の取組を評価する。

- いじめの未然防止にかかわる取組に関すること
- いじめの早期発見にかかわる取組に関すること

VII その他

1 校務の効率化

教職員が児童と向き合い、いじめの防止等に適切に取り組んでいくことができるようにするため、校務分掌を適正化し、組織体制を整えるなど、校務の効率化を図る。

2 地域や家庭との連携について

いじめ防止等にかかわる方針及び取組について、保護者及び地域に公開し、理解と協力を得る。
また、より多くの大人が児童の悩みや相談を受け止めることができるようにするため、学校と家庭（必要に応じ保護者との面談・家庭訪問の実施）、地域が組織的に連携・協働する体制を構築する。

Ⅶ いじめ事案対応に関するフローチャート（組織対応の流れ）

